

生長が良好の様である。

光線、乾燥に対する抵抗性は実験の結果、対照のカキ殻と余り差はなく、直射日光下で10分前後、室内乾燥(湿度75%)で40分位で枯死する。

一方、6月中旬に有明海の島原市猛島海岸で平均干潮線附近の枯死石灰藻を採集して糸状体の穿孔を鏡調査した。天然の石灰藻基質には貝殻同様に色々の穿孔生物が見られる上に、貝殻と違つて糸状体の放射状の輪郭や特徴ある分枝が見難いので識別が困難であるが、撰択的に採集したものの約14%で、アマノリの糸状体と思われるものを観察した。

石灰藻の被覆はやや外洋性の内湾では、貝殻よりはるかに多いと推定され、そのうち枯死しているものも少ないと思われる。胞子の形成や放出等の観察が必要であるが、石灰藻基質に果胞子が穿孔生長することは興味深い。またこのことは今後海に於ける石灰質以外の基物に附着した果胞子の帰趨の究明等とともに天然採苗の実態を把握する参考資料にもなると思う。

終りに御指導をいただいている瀬川宗吉博士に御礼申し上げる。

## 日本、琉球及台湾産のテングサモドキ屬 (*Gelidiopsis*) に 就 て

山 田 幸 男

本属は元1895年にFR. SCHMITZが東アフリカ産の海藻をしらべた際に *Gelidium pannosum* GRUNOW に相当する種類を精検し、これは *Gelidium* とは構造が全く異なる事を指摘し、それに基いて創設した属であつて、属の Type species としては嘗て Greville が *Gigartina variabilis* GREV. として報じたものを *Gelidiopsis variabilis* (GREV.) SCHM. として明示した (Engler's Bot. Jahrb., 1895, p. 148)。そして同時に MONTAGNE & MILLARDET の *Gelidium scoparium* M. et M. も KÜTZING の *Gelidium repens* KG. も共に此の新属に入れらるべきものとした。其後 VICKERS は KÜTZING の *Acrocarpus gracilis* KG. としたものと及び C. AGARDH の *Sphaerococcus intricatus* AG. とし、又 KÜTZING が *Gelidium intricatum* KG. (Sp. Alg., 1849, p. 767) として記載し、*Acrocarpus intricatus* KG. として図説した (Tab. Phyc. vol. 18, 1868, pl. 35, figs. d-f) ものを何れも本属に移した (Liste

des algues mar. de la Barbade., Ann. Sc. Nat. Bot., 9<sup>e</sup> Série, t. I, 1905)。其後 SETCHELL & GARDNER は New mar. alg. Gulf Calif., 1924, p. 749, fig. 1 で *Gelidiopsis tenuis* を記載した。そして更に FELDMANN は Rem. sur gen. *Gelidium* etc., 1931 に於いて最後の種を除く各種の信頼すべき標本を精検して本属と *Gelidium* 及び *Echinocaulon* 等との関係を明にした。此等によれば目下本属の valid species は下の 7 種になる。即ち

1. *G. variabilis* (GREV.) SCHMITZ
2. *G. repens* (KG.) SCHMITZ
3. *G. scoparia* (MONT. et MILL.) SCHM.
4. *G. pannosa* (GRUN.) SCHM.
5. *G. intricata* (AG.) VICKERS
6. *G. gracilis* (KG.) VECKERS
7. *G. tenuis* SETCH. et GARD.

尚 SCHMITZ の原記載によれば「髓は細くて縦に長い細胞より成り、皮層は短く太き細胞より成り、外部に行くに従ひ漸々に大きさを減じ、薄き又は稍厚き小細胞より成る最外層に続く、四分胞子は十字状に分れ、末端小枝の特別に異ならざる外層中に埋在する。嚢果は末端小枝に単一又は集り生じ、卵形、カイメンソウ属 (*Ceratodictyon*) の夫れの構造を有する」とある。而して嚢果は今迄の処只 SCHMITZ 自身が Ceylon 産の *G. variabilis* に於いて見たのみで其後の記載は見当らない。(SCHMITZ が *G. pannosum* を調べた際に創設した本属であるのに Type species として *G. variabilis* を選んだ理由は本種のみについて嚢果が見られたからであろう)。而して前述の様にその構造が *Ceratodictyon* の夫れに近いので *Gelidiopsis* を *Ceratodictyon* の近処に置いたのである。とも角本属のものには嚢果の出来る場合というのは極めて稀であるらしく、今後でも本属の分類を行なうに際して嚢果の性質を考慮に入れる等は實際無理と思はれる。之に反して四分胞子は時に之を見る事があり、吾々の調べた与那国島産の *G. intricata* には明に之を見る事が出来、WEBER VAN BOSSE, FELDMANN, SETCHELL 等も亦他の種に於いて之を観察してゐる。然し何と云つても此の類の分類に際しては多くの場合その体の外形、構造の差等にたよらなければならぬ。

そこで我近海に産する本属を見るに、日本海藻誌には p. 635 に本属をあげ *G. repens* SCHM. と *G. variabilis* SCHM. の二種が記してある。而して

前者の産地として台湾紅頭嶼、アジンコート、琉球、紀伊瀬戸とあり、後者のものとしては Hoapinsu (黒岩, HEYDR.) とあり、之は恐らく岡村先生自身で見られたものではなくして HEYDRICH のものを転載されたものと思はれる。尚岡村先生の標本の内には *G. variabilis* の標本はなく又 *G. repens* に関しては只1個の甚だ小さな標本が紅頭嶼産のものとして所蔵され、尚この標本は且て岡村先生より WEBER VAN BOSSE の許に送られ *G. repens* SCHMITZ としてその検定を得られたものである。其後筆者は台湾ガラランビ、火焼島等に於いて *G. repens* に該当する多数の標本又 *G. variabilis* に酷似せる標本を採集し得た。それから田中剛博士は与那国島に於いて *G. repens* 並びに *G. intricata* に該当するものを採集し、之は己に同博士と筆者の共著の与那国島産海藻リスト中に報告された (Mar. alg. from Isl. of Yonakuni, 1938, p. 74)。又其後八丈島の海藻を調査するに当つて *G. repens* に近きも之と少しく異なる別の一種を採取し、瀬川博士と共著の On some new or noteworthy algae from Hachijo Island (Rec. Oceanogr. Works in Japan, New Ser., vol. I, no. 1, 1953) に *G. hachijoensis* YAM. et SEG. ハチジョウテングサモドキとして発表した。

尚此処に一言したいのは恐らく本種と同じもの、又尠くともその変種又は一形と思はれるものが台湾に産する事で、筆者は先年之等をガラランビ及び大里の海岸に採集した。体の外貌並に解剖的性質に於いて本種と好く一致するのであるが、両者共八丈島のものよりも著しく大形であるので今暫く之を措く。勿論これ等の標本にも生殖器官は見られない。

一方又昨年10月紀州に採集を試み、串本町に於いて同地森島千景氏採集の潮の岬産海藻の標本を検した際又別の一種に遭遇した。これは干潮線間に於いて採集されたもので、矢張り生殖器官を欠いてゐる。然し、体の様子、その構造等によつて本属の1種であることは殆んど疑う余地がない。然かも KÜTZING が Tab. Phyc. に *Acrocarpus gracilis* KG. の名の下に記載している図とよく吻合する。而してこの種は後 VICKERS により *Gelidiopsis gracilis* (KG.) VICKERS とされているものである。尚本種の type locality は南アメリカ北部仏領ギアナ地方の Cayenne で其後 VICKERS は同じく大西洋西印度諸島中の Barbados 島で採つているが、其後何処からも報ぜられていない。

最後に上掲8種の検索表を掲げる。

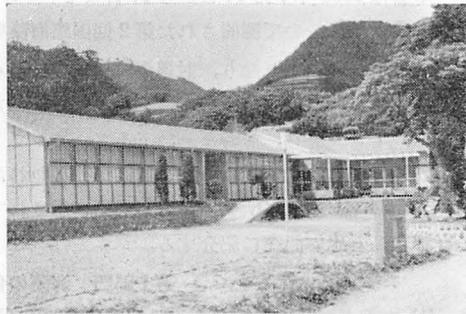
- I. 枝の先端掌状乃至多数に分る
  - II. 枝は円柱状 ..... *G. scoparia*
  - II. 枝は扁平 ..... *G. repens*
- I. 枝の先端上の如くならず, 単一
  - II. 枝は扁平 ..... *G. hachijoensis*
  - II. 枝は円柱状又は少しく扁平
    - III. 著しく密に叢生, 錯綜す
      - IV. 体細く径 0.14 mm 以下 ..... *G. pannosa*
      - IV. 体は上の如くならず ..... *G. intricata*
    - III. 体は上の如くならず
      - IV. 枝略叉状又は *fastigiata* ..... *G. gracilis*
      - IV. 枝不規則, *fastigiata* ならず
        - V. 枝割合に多し ..... *G. variabilis*
        - V. 枝割合に少し, 髓糸は上より密なり ..... *G. tenuis*

(北海道大学理学部植物学教室)

## 新らしく伊豆にできた水産試験場 伊豆分場について

テングサと言えは伊豆, 伊豆と言えはテングサをまず思い浮べるその伊豆に, 今度新らしくテングサ類の増殖の研究を主体とする 水産試験場の発足を見た。昭和 32 年 5 月 1 日その開所式が盛大に行なわれた。

古来, 伊豆地方はテングサの産地としてその名は広く天下に知られている。しかし何分海中農業であるテングサ業は, いろいろの面で大変不安定な要素を沢山含んでおり, その上ほとんど収穫一点ばりでさえあつた従来の姿は, 言うなれば原始的略奪農法以外の何物でもなかつた。この事は早くから心ある人々を憂いさせていたが, 特ここ数年来, 磯焼け現象によるテングサ類の甚だしい減少が契機となつて, 伊豆のテングサ業者の反省乃至批判は愈々高まり, より科学的基盤に立つ研究及び解決方策の導入を



新しく伊豆にできた水産試験場  
伊豆分場